



伝統の継承。

**ア** フターホイール業界でもマルチピース技術に長けたワークは、世界を代表する一大企業にまで伸び詰めた。その勢いを感じさせるように、毎年、新製品を大量投入する彼らにしても、今回は特別だった。なにしろ2017年は創業から40年だ。多種多様な新製品を牽引してしまうような勢いを持つ、まるで原点回帰ともいえる作品を登場させてきた。

その名もEquip40（エキップ・フォーティー）。いまおワークの“スポーツ魂”を最も色濃く体现するEquipの原点にして、会社の発足当初に生まれた銘柄を、現代的な技術と解釈を持って巧みによみがえらせた3ピースホイールである。まるで新車のような状態にまでフルレストアされ、さらに随所に日本流のモディファイが全てられた、トライアンフTR3Aに装着された。

実際はこの個体、ワークの創業者である故 田中 毅氏が実際に所有していた個体で、晩年にレストアを手がけていたもの。残念ながら彼は2015年に世界を去ってしまったが、ワークのもとで育った仲間たちが、40年目に向けてよみがえらせたのである。国産シートメーカーたるBRIDEに、ワイドボディを描くT.R.A KYOTOに——と、ワークで育った者たちの協力がそこにはあった。

アンバーサリーの側面を持つEquip40ながら、15インチで5.5Jから13.0Jまで実に広い範囲をカバーする、れっきとした市販モデルである。マルチピースならでの自在なサイズ設定を活かして、年代、大小問わずヒストリック系やネオヒス系、ともしれば最新コンパクト系にも似合いそう。もちろん、ハイグリップタイヤを組み合わせて全開で踏み抜ける強さを持っている。いまや複数のブランドを展開して世界各国多種多様なモデルの足もとを彩るワークの、その原点的存在の復活。それはホイール運びに困っていたヒストリックカーに対しても、春の到来と共にふたたび息吹を与えようである。👊



ワークという企業の心の変えとなるようなトライアンフTR3Aの足もとには自身の40周年記念モデルであるEquip40が装着された。T.R.A KYOTOにより前50mm、後70mmほど拡張されたフェンダーにピタリと一致するような前8.0J、後9.5Jの15インチが収まった。装着されるタイヤは225/45、245/40のHoosier R7となる。

WORK  
 Equip 40

Text : 中三川大地, Daitchi Nakagawa  
 Photo : 井上隆久, Teruhisa Inoue



サイズ：5.5×15～13.0×15  
 価格：¥38,000～¥93,000  
 カラー：マットシルバー／  
 スプリングゴールド

同じく伝統のMEISTERも新作をリリース

MEISTER L1 3PIECE  
 サイズ：8.0×19～16.0×19  
 ※18インチもリリース予定  
 価格：¥88,000～¥104,000  
 カラー：マットシルバー／  
 マットカーボン



Equipと並んでワークの定番ブランドがMEISTER(マイスター)シリーズだ。発端は90年代のレーシングホイールという長身ながら、最新バリエーションを拡大、2017年モデルとしては3ピースのL1が加わった。18、19インチの範囲で8.0J～16.0Jまで用意される。今作もまた、ワイドフェンダーへ深り込める定番銘柄になりそうだ。